

平成30年度 輪之内町立福東小学校 学校評価書

学校の教育目標	豊かな心 たくましい力のある子
経営の重点	みんなの自信と笑顔があふれる学校

※評価欄の記号 評価基準 A(3ポイント)：実践し、効果をあげることができた。
 B(2ポイント)：実践し、一応の効果をあげることができた。
 C(1ポイント)：実践し、僅かだが効果をあげることができた。
 ◎：カ点 D(0ポイント)：実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓 評価の観点	ポイント	評価	2学期までの成果	来年度に向けて	学校関係者評価	
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	1 管理職の指導性の発揮と機能的な運営組織の確立 管理職の指導の下、各教職員の適切な役割分担と連携によりチームとして組織力を発揮できる機能的な運営組織を確立する。	97	A	<ul style="list-style-type: none"> 管理職の指示やアドバイスがあり、行事の計画や準備、進行などを協力して行なうことができた。 校長の月の重点を、どの学級も大切にして、合言葉にしたり取り組んだりすることができた。 「チーム福東」として児童のために同じ方向を向いて指導にあたることができた。 児童や保護者にかかわる問題に、管理職がすぐに把握・指導し、児童への指導援助などをリードした。 	<ul style="list-style-type: none"> どの学級でも、月の重点を大切にして、指導する。さらに、評価を学級で行い、交流することで、高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職を中心に、指導されていることが、学校のまとまりにつながっている。 	
	2 ◎ 創意ある教育課程の編成・実施 こ・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	77	B	<ul style="list-style-type: none"> こども園との交流は、年間を通して、計画どおり行なうことができた。 6年生の「こども園訪問」は、思いやりの気持ちを育む面でもとてもよかった。 年度末には、園児や児童の交流を行い、情報共有に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> こども園との交流について様子を広め、成果を明らかにして引き継いでいく こども園や中学校と情報交流を確実に引き継ぐ。 互いの教育について学びあい、生かしていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> こども園や中学校との交流を通して、さらに、互いの教育やよさを学びあえるとうい。 	
	3 危機管理体制の確立 児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域・社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	87	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を確実にし、不良や故障などは、速やかに報告し、修繕に努めた。 大きなけがにつながるような事故なく、安全に生活することができた。 けがなどには、複数で判断するなどして、素早く対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、安全点検を確実にし、行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> 体制を整えるとともに、「自分の命は自分で守る」という子どもの意識を高めることも大切である。 通学路で倒れてきそうなものがないか点検することは、地域でも行うべきである。
	4 家庭や地域とともにある学校づくりの推進 学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、地域とともにある学校づくりを推進する。	77	B		<ul style="list-style-type: none"> 学校便りやPTA、地域の方が集まる場で、学校の様子や方針、指導について、積極的に伝えるようにした。 12月の保護者アンケートに加え、授業参観や文化祭などでも、保護者アンケートを行い、指導改善に生かすようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの率直な意見を大切にして、学校経営や児童への支援に生かす。 	
	5 組織的・計画的な研修 教職員の資質や指導力の向上のため、授業研究とともにコンプライアンスに関する研修を組織的・計画的に実施する。	93	A		<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動や体育の指導法などについての研修は、具体的に生かすことができた。 コンプライアンスにかかわる研修は、西濃教育事務所の重点に沿って、行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修への参加を計画的に促すようにする。 コンプライアンスにかかわる研修は、適時、週の打合せなどでも行い、周知を図る。 	
	6 ◎ 勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営 校務分掌や運営組織等を見直すなどして業務のスリム化を図り、教職員の児童生徒に関わる時間を確保するとともに、教職員自身が心身共に健康で、やりがいをもって教育指導に取り組めるよう、学校経営を工夫改善する。	77	B		<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間について、現状を明らかにしたり、具体的な目標を提示したりすることで、短縮に向けて、一人一人が意識を高め、改善することができた。 水曜日の18:00に帰宅することは、ほぼ達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や運営組織、役割分担などをさらに見直し・精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務の適正化に向けて、町ぐるみ・学校ぐるみで取り組んでいる。今後も、精選や見直しを進める。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	7 ◎ 資質向上を図るための組織的・継続的な研修 校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や児童生徒の教育的ニーズに対応する確かな指導力を高める研修を工夫改善する。	83	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業に真摯に取り組み、国語(説明文)の授業展開について、学ぶことができた。 単元のねらいに沿って、授業のスリム化を意識した。 国語の話し合い活動に力を入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を視覚化するなどして、児童が主体的に話し合い活動を進めることができるよう工夫改善する。 授業について、重点やめざす姿などを具体的検討・提案して、大切にする。 授業の終末に、評価を取り入れることで、児童の充実感を高める。 		
	8 経営に参画する意識や専門性を高めるための研修 学校経営に主体的に参画するとともに、教科指導、学級経営、生徒指導等、教職員としての専門性を高める研修に主体的に取り組む。	77	B		<ul style="list-style-type: none"> 道徳や人権教育など、研修で学んだことを、全職員に職員会議や打合せで報告することで、広めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの得意なことや持ち味を生かして、広めるようにする。 校外研修への参加を計画的に促すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい中ではあるが、校外での研修の機会を生かしたい。
	9 経験年数や職務に応じた研修 経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	73	B	A			
	10 ICT活用や情報モラルの研修 分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修に努める。	90	A		<ul style="list-style-type: none"> ゲームやインターネットについて、危機感をもって、全校集会の場で、生徒指導担当が指導した。 授業の中で、デジタル教科書やインターネットからの情報を活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルについては、学年に応じた指導をするとともに、保護者への啓発をさらに、行なう。 ICTの効果的な活用について、研修や実践の交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で、デジタル教科書がよく活用されている。

町の重点	評価の窓 評価の観点	ポイント	評価	2学期までの成果	来年度に向けて	学校関係者評価
	11 特別な支援に関わる組織的・計画的な研修 特別支援教育コーディネーターを中心としたケース会議や、全職員による組織的な研修に努める。	93	A	・必要に応じて、速やかにケース会をもち、児童の様子や指導について共有することに努めた。 ・児童の現状や指導を伝えることで、研修を図った。	・校外での研修に、積極的な参加を促す。	
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	12 指導目標と評価規準を明確にした指導計画の作成と改善 指導目標と評価規準を明確にした指導計画を作成するとともに、児童生徒の学力や学習の状況を踏まえた指導改善サイクルの立案・実施・検証・改善に取り組む。	73	B	・「福東小の授業はこれだ」について、週案に取組や振り返り、ねらいをもったグループ交流やペア交流に取り組んだ。	・授業で、めざす児童の姿について、学校全体としての重点を明らかにして、指導計画を改善し、取り組む。	
	13 ◎ 思考力・判断力・表現力等を高める指導の充実 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、それらを活用して思考力・判断力・表現力を育てる授業を実践する。	73	B	・課題化の場面では、どの子どもが個人追究していけるように、見通しをもたせるようにした。	・45分間を大切に導入・展開・終末のある授業を行うことに努め、児童が充実感をもてるようにする。 ・「福東小の授業はこれだ」について、実践を振り返り交流することで、授業改善に生かす。	・重点を決めて、福東小学校らしさが出るように。
	14 質の高い学びを実現する学習集団の育成と学習習慣を確立する指導の充実 互いの見方・考え方から学び合うことを通して、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	73	B	・学年や学習内容に応じた小集団での交流や話し合いを入れることを工夫した。	・互いの考えを練りあったり高めあったりする学習集団の育成に努める。 ・対話的な学習を積極的に取り入れる。 ・小集団での交流や話し合いの仕方やルールを明らかにする。	・どの学級も落ち着いて授業に取り組んでいる。さらに、話し合いなどで学び合えるよう、工夫されるとよい。
	15 図書の計画的活用や読書の推進 学校図書館を利用しやすく整備し、図書の計画的活用や読書活動の推進に取り組む。	77	B	・朝の読書の時間に、静かに取り組むことができた。 ・学年にあった本を選べる子が増えてきた。	・推薦図書については、読書カードに記録を残すようにする。 ・司書との連携を図り、教科書の教材文から読書につなげる。 ・読書サークルの方や担任からなど、読み聞かせの機会を多くする。	・読書の時間が位置付いていてよい。家庭での読書する子が少ないので、家庭にも広められるとよい。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	16 道徳教育推進教師を中心とする指導体制の充実 道徳教育推進教師を中心に、校内組織や校務分掌を生かすなどして、全教育活動を通して道徳教育の充実を図る指導体制を整える。	77	B	・授業の進め方について共通理解を図ることができた。		・道徳は、授業があいさつやボランティアなど、道徳の実践につながることを大切にしたい。
	17 「特別の教科 道徳」と他の教育活動との関連を明確にした指導計画の工夫 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を明確にした学級における道徳教育の指導計画を作成し、改善を図る。	73	B	・全校道徳で、いじめに対する共通理解を得ることができた。	・全校道徳では、全校で同じ資料を基に考えることを大切に、各学級で学年に応じて深める。 ・道徳の授業を参観する研修の機会を設ける。	
	18 ◎ 生き方についての考えを深める「特別の教科 道徳」の充実 道徳的価値の理解を自分との関わりで考えるとともに、多様な考え方や感じ方に接して物事を多面的・多角的に考えるなど、生き方についての考えを深める「特別の教科 道徳」の授業を充実する。	77	B	・児童の発達段階に応じて、道徳ノートを位置づけ、自身の振り返りや項目ごとに自身の変容を見ることができるようにした。	・週に1時間の道徳の授業を確実にこなす。	
	19 家庭や地域と連携した地域ぐるみの道徳教育の推進 「ふるさと教育」や「1家庭1ボランティア運動」、各学校のあいさつ・美化・ボランティアへの取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	80	A	・地域でのあいさつを、通学班のまとまりで指導したり価値付けたりすることで、高めるようにした。	・道徳の評価について研修する。 ・登下校での見届けをしていきたい。	
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う。	20 学年間を通じた指導計画の工夫改善 小学校中学年と高学年、高学年と中学校との接続を踏まえた指導計画を工夫改善し、指導体制を整える。	73	B	・英語講師と授業の打ち合わせをすることで、担任が授業の見通しをもつことができた。	・T1とT2の役割をはっきりとさせ担任がT1で行なう授業をめざす。	・ALTと英語担当の教員、担任とで、教科書に沿った活動が楽しく行われている。教員の指導力を高めたい。
	21 主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫 積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。	77	B	・英語活動について、指導の仕方を具体的に研修できた。 ・英語活動の専科教員とALTとで、楽しく授業を進められた。	・児童が主体的に活動する時間を長くとれるようにする。 ・授業の中で、教師からの評価を行なう。	
	22 ◎ 校内研修の実施及び校内指導体制の整備 担任や教科担任、ALTとの連携を密にするとともに、率先して授業公開を行って指導法について学び合うことで、英語教育の充実を図る。	70	B	・英語研修の還元研修で、英語教育推進について理解を図った。 ・英語活動の専科教員のリードで、授業の流れや方法を学ぶことができた。	・ALTと連携して、担任がT1である授業の展開を工夫する。 ・授業を全職員で参観し、指導力向上を目指していく。	

町の重点	評価の窓 評価の観点	ポイント	評価	2学期までの成果	来年度に向けて	学校関係者評価	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	23	目標と育てようとする資質・能力を明確にした全体計画・指導計画の工夫改善 小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう、全体計画や指導計画を工夫改善する。	73	B	・年間の指導計画にそって各学年で進めた。	・改善点や、授業で使ったワークシートなどを引き継ぐ。	・どの学年も、わかりやすくはきはきと発表することができていた。さらに、ふるさとから学び、親しむ活動を大切にしたい。
	24 ◎	体験活動と言語活動を設定した探究活動の充実 身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定した探究活動を充実する。	77	B	・カワゲラウォッチングなどの校外学習やグループ学習を通して、活動を充実させた。 ・下学年の児童への発表することで、発表の仕方を工夫することができた。	・発表の様子の写真やプレゼンを残して、引き継ぐ。	
	25	学習活動に対する適切な評価及び指導・援助の充実 単位時間の評価規準を明確にしたり、多様な評価方法を取り入れたりして、指導・援助の充実に生かす。	70	B	・評価については、十分とはいえない。	・評価方法を工夫する必要がある。	
	26	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心の育成 地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざした「ふるさと教育」を積極的に推進する。	70	B	・地域の施設を訪問したり、見学をしたりして、地域を生かした活動をすすめている。	・各学年の活動の地域との関連を明確にして、引き継ぐようにする。	
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	27	生き方についての考えを深める指導計画の工夫 児童生徒が、自らの現在及び将来の生き方について考えを深め、自己を生かす能力を養うことができるよう指導計画を工夫する。	77	B	・毎月の重点を明らかにして、委員会からの働きかけを行い、学級で取り組むようにした。	・自分について、振り返ったり考えたりすることができる指導計画を見直す。	・どの学級でも、友だちのよいところを伝え合うことを大切にしていることがわかる。これからも、継続してほしい。
	28	よりよい生活や望ましい人間関係を築く指導と評価の工夫改善 児童生徒の自発的、自治的な活動（いじめ問題への取組等）を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を發揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	83	A	・一人一人が係活動や委員会活動などの役割をもって、生活することができた。 ・福祉委員会の「あいさつタッチ」の働きかけで、あいさつの姿が高まった。 ・全職員で、児童のよさをみつけ価値付けることに努めた。 ・委員会活動では、児童がアイデアを出して新たな取組を考えるなど、自主的な活動が出てきた。	・自分のよさに気づき、自信をもつことができる取組や指導をさらに工夫する。	
	29 ◎	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実 学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	77	B	・学級の問題について、学級で話し合う活動を通して、原因や今後の生活について考えることができた。 ・委員会の働きかけで、どの学級もキャンペーンに取り組み、生活の向上を図ることができた。	・学級遊びを大切に、よりよい人間関係づくりにつなげた。 ・学級(学校)で問題について、本音で話し合い、高めていく指導を工夫する必要がある。	
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	30	児童生徒理解の深化 一人一人の児童生徒の能力・適性、興味・関心、生育環境等、児童生徒を多面的・総合的に理解するとともに、きめ細かい観察や対話などを通して全教職員で広い視野から児童生徒理解を行う。	83	A	・児童の観察やアンケート、保護者と連絡を取り合うなどして、児童理解に努めた。	・アンケートに表れない児童の悩みなどについて、日頃の観察や声かけを怠らず、注意を図る必要がある。	・いじめや問題行動に対して、教員が協力して指導していることがよくわかった。小さなことを見逃さない目をもつことが大切である。 ・アンケートに表れないこともあるので、子どもをよく見る、よく聞いて、みんなが安心して生活できるようにしてほしい。
	31	教職員と児童生徒との信頼関係の構築 日ごろの人間的な触れ合いと児童生徒と共に歩む教職員の姿勢、授業等における児童生徒の充実感・達成感を生み出す指導、児童生徒の特性や状況に応じた的確な指導と不正や反社会的行動に対する毅然とした指導などを通じて、教職員と児童生徒の信頼関係を築く。	90	A	・アンケートに対して、速やかに報告し、対応や指導、解決を図った。 ・週1回の教育相談を確実に、困っていることや悩みに耳を傾け、解決を図った。	・授業での価値付けを、積極的に、充実感や達成感につなげるようにする。	
	32	特別な配慮を要する児童生徒への指導 障がいのある児童生徒、日本語の習得に困難のある児童生徒、不登校傾向にある児童生徒など、特別な配慮を要する児童生徒への指導援助を充実する。	83	A	・特別な配慮を要する児童に対して、実態の把握に努め、指導援助の方法を確かめながら、協力して指導にあたった。	・さらに、視野を広げて、学級の中で、特別な配慮を要する児童の指導援助を工夫する。	
	33	主体的によりよい人間関係を形成していくこととする集団づくり 児童生徒一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒相互の関わり合いを大切に学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	83	A	・学級や全校ぐるみで、児童のよさやがんばりを認め、広めることに努めた。	・他から認められたことを、自分の自信につなげる取組や働きかけが必要である。	
	34	一人一人に分かる喜びや学び意義を実感できる授業づくり 児童生徒が分かる喜びや充実感を味わい、個が大切にされる授業を展開し、一人一人のよさや可能性が發揮できるようにする。	77	B	・児童が素直に意見を伝え合うことができてきている。	・授業での振り返りや評価を大切に、一人一人が喜びや充実感を味わえるようにする。	

町の重点	評価の窓 評価の観点	ポイント	評価	2学期までの成果	来年度に向けて	学校関係者評価
	開かれた生徒指導の推進（全教職員の共通理解、協力体制・指導体制の整備、家庭や地域及び関係機関等との連携・協力） 不登校や問題行動（いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等）については、全職員が危機意識をもち、早期発見・早期対応はもとより未然防止に重点的に取り組み、家庭や地域・関係諸機関等との情報共有と行動連携を強化し、組織的に対応する。	87	A	・「にこにこアンケート」をすぐに回覧し、記述には聞き取りを行い対応した。 ・問題行動や不登校ぎみの児童に対して、ケース会議を行なうなどして、職員が協力して支援をし、よりよい方向に導くことができた。	・いじめにつながる言葉遣いや態度については、アンテナを高めて、指導にあたる。 ・不登校ぎみの児童に対して、具体的な支援を図る。	
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	キャリア教育についての全教職員の理解 学校の全教職員でキャリア教育についての共通理解を図り、役割を明確にする とともに、全教育活動を通じてキャリア教育を実践する。	63	B		・キャリア教育についての共通理解を図る機会を設ける	・まずは、いろいろな職業があることを知ることが大切である。 ・将来の夢について、いろいろな機会を通じて、目標がもてるとよい。
	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付けと事前・事後指導の充実 望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動等）を位置付けるとともに、事前及び事後指導を充実する。	90	A	・清掃活動や栽培活動で勤労を尊ぶ姿勢を育てている。 ・係活動や掃除、ボランティアに積極的に参加している児童を価値付け、全校に広げることができた。 ・清掃活動に、一生懸命取り組む指導ができています。	・清掃活動の伝統を引き継ぎ、高める。	
	よさを生かした主体的な進路選択ができるガイダンス機能の充実 一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。 (中)	70	B			
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	指導内容の明確化・重点化を図った指導計画の工夫改善 児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導計画を工夫改善する。	80	A	・児童の実態をふまえた指導ができた。	・ゲームやネットとのつきあい方もふまえながら、生活習慣についての指導が必要である。	・身体を動かして遊ぶことが減っている。遊び方を知らない子もいる。思いっきり身体を動かす機会を多くしてほしい。
	健康で安全に生き抜く力を育てる指導方法や指導体制の工夫改善 児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組むよう、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	83	A	・朝マラソンに一生懸命取り組むことができた。 ・運動会や持久走大会などに、全力で取り組むことができた。 ・委員会活動として、児童の呼びかけもよくなっている。	・縄跳びやボール遊びなどを通じて、業間休みなどに運動を促進させていく。	
	児童生徒の健康・安全を守りきる、地域や学校の実態に応じた実効性のある対策の充実 児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を発揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	80	A	・食物アレルギーや心疾患をもつ児童について、職員間で対応の共通理解をして、安全に努めることができた。	・アレルギーについて、確実な対応を継続する。	
	自ら命を守りきる防災意識の向上 各学校の「防災マニュアル」に基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進するとともに、自分の命は自分で守る意識をもち、主体的に行動することができるよう、「命を守る訓練」をより実効性のある内容に改善する。	83	A	・「命を守る訓練」を計画的に行なうことができた。 ・訓練の内容を少しずつ変え、体験や講習を入れるようにしていた。	・実際の災害で役立つよう、想定幅を広げた訓練を行なう。 ・体験学習的な訓練や限定された場・状況での訓練を行なう。	
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の提供 特別支援教育コーディネーターを中心に、こども園や関係機関との連携を図りながらケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の一層の充実に努める。	83	A	・ケース会議を開き、保護者や児童の必要としての配慮や支援を確認することができた。 ・児童の実態や保護者の願いをもとに、指導内容を工夫改善した。	・通常学級の中の支援のある児童について広く目を向け、具体的に支援をする。	・一人一人が大切にされている。特別支援学級では、少人数で楽しく授業が進められている。一人一人が活躍している。
	主体的に活動できる指導や評価の工夫改善 本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で一人一人が能力や特性を発揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	77	B	・「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を保護者と確認をした。	・「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を、今年度の実践から作成し、確実に引き継ぐ	

町の重点	評価の窓 評価の観点	ポイント	評価	2学期までの成果	来年度に向けて	学校関係者評価
	共生社会の形成を目指した交流及び共同学習の計画的・継続的实施 特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的に行い、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	80	A	・特別支援学級の児童が、通常学級の中で、自分の力を発揮し、関わりをもちながら学習することができていた。	・交流学习の時に、通常学級の担任や支援員が、積極的に、特別支援学級の児童に関わることで、人間関係や支援の幅を広げることができるようにする。	
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導の工夫改善 互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	90	A	・児童は、友だちのよさががんばりをみつけ、帰りの会の「かがやきみつけ」をすることができた。	・自分のよさががんばりを自覚できる取組や働きかけに努める。 ・学年に応じて、よさをみつける視点を示す必要がある。	・どの学級でも、互いによさを認め合っていることがよくわかる。
	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、学校全体が一体となった取組を継続的に行う。	93	A	・いじめに関わる全校道徳を行い、共通に話し合いができ「いじめゼロ宣言」への意識が高まった。 ・「ひびきあい活動」では、学級の実態に応じて取組を行い、言葉遣いに関わる人権意識を高めることにつながった。 ・人権に関わる問題が起きたときに、速やかに全校集会を開き、全員の問題として指導することができた。	・キャンペーンが終わっても、「ひびきあい活動」の取組を継続する。	
【情報教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、小中9年間を見通した系統的な指導の充実 児童生徒の情報活用能力に関する実態を把握し、健全な情報活用能力を身に付けることができるよう、発達の段階に応じた系統的な指導に取り組む。	70	B		・情報活用能力をつけるための指導計画を作成する必要がある。	・ネット上でのやりとりやゲームなどで、トラブルが起きている。1年生から、繰り返し、マナーやしてはいけないことなどを指導する。 ・保護者が十分に子どものことを把握したり指導したりすることができていない。保護者の意識が高まるよう、PTAでも取り組むとよい。
	「輪之内町情報モラル宣言」をふまえた意図的・効果的な指導の充実 「輪之内町情報モラル宣言」を踏まえ、児童生徒が「ネット依存」「有害サイトへのアクセス」「ネット上のいじめ」など、ネットトラブルの被害者や加害者にならないための適切な判断・行動力を身に付けることができるよう、意図的・効果的な指導を行う。	87	A	・ネットやゲームの依存症について、生徒指導担当がリードして、全校に指導することができた。それによって、町の情報モラル宣言への意識を高め、各家庭での約束を見直すことができた。 ・地区懇談会で話題にしたり、全校で情報モラルについての指導した。 ・全校での指導を受けて、学級で指導することを繰り返し行うことで、児童は自らを振り返ることができた。	・実態を把握し、継続的に家庭で決めた約束が守れているか確かめたり、依存症の怖さについて指導したりする必要がある。	